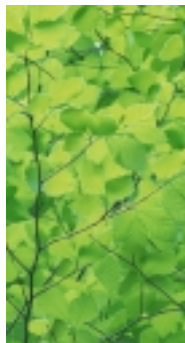


太田市立休泊小学校（群馬県）



1. 地域特性

太田市立休泊小学校は、市中心部から東に車で10分ほど行った郊外に立地している。近年、土地区画整理事業が完了し、戸建て住宅やアパートの建設が進み、人口及び児童数が増加している地域である。

外観（改修前）



2. 事業の経緯

太田市教育委員会では、昭和49年に建設された校舎の耐震診断を実施した結果、耐震補強が必要との判定結果が出たため、耐震補強と併せて大規模改造工事を実施することとした。その際学校側からは、児童数の増加とともに手狭になった職員室及び親子図書館（図書は保護者等からの寄贈）の改善が要求された。

設計に当たっては、耐震補強による教育環境の悪化を招かないことを基本的な方針とし、まず既存校舎の実地踏査と使い方に関する聞き取り調査により現状把握が行われた。設計の検討組織は、教育委員会担当者を中心にして設計者らによるチームを構成し、定期的な会合だけでなく、小学校の教員全員との意見交換の場も設け、設計に反映させた。



外観（改修後）※ 右端校舎は改修後新たに増築



普通教室（廊下側）



1階 特別活動室



校舎の補強の様子（1階は増築された職員室）

3. 事業の内容

○「アタッチドフレーム工法」による耐震補強

耐震補強は、ブレースによる補強に比べ、教室等の学習環境や外観デザインを損ねることがない「アタッチドフレーム工法」が採用された。具体的には、校舎南側のベランダの前に新しく柱を建て、桁でつなぐとともに、既存校舎の柱と梁を介して接合させ、また校舎北側の廊下の柱が補強された。



南面フレーム

この補強方法の採用により、普通教室の可動間仕切壁によるオープン化やベランダ側の腰壁撤去による廊下ー教室ーベランダ間の自由な動きが可能となるだけでなく、グループ機の設置や廊下に収納やベンチを設置する等多様な授業形態に対応できるよう、普通教室の改修が実施された。

○螺旋階段設置

階段室やトイレがあった校舎中央部は、コンクリートが過重量となっていたため、鋼製の螺旋階段とし、トイレは廊下北側に増築され、軽量化が図られた。螺旋階段部分は、1階から屋上ペントハウスまでの吹き抜け空間となり、校舎の上下方向の流動性が向上した。



螺旋階段

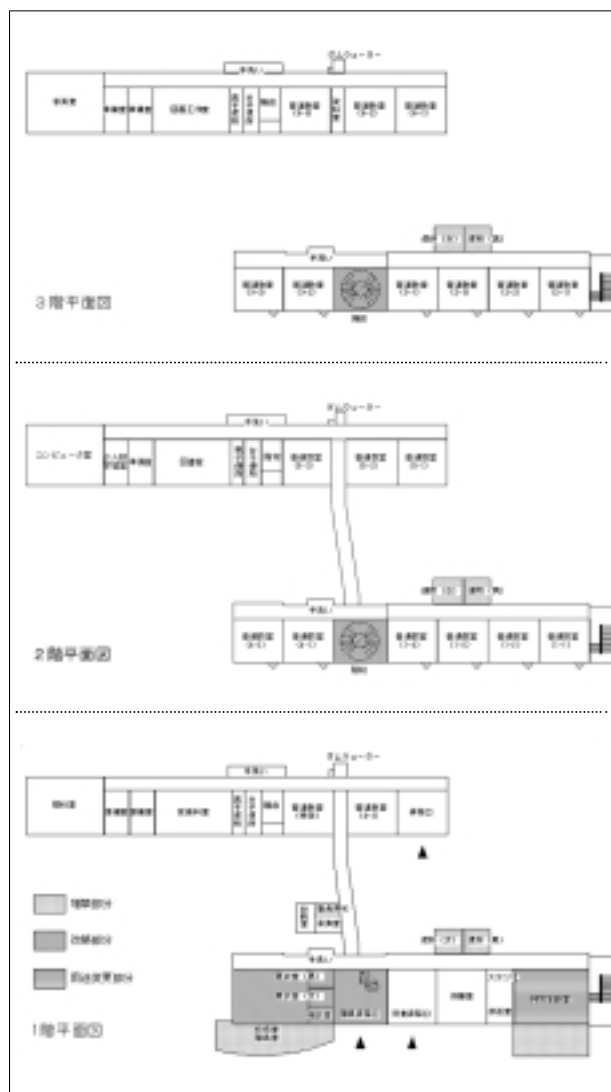
○1階両端部の増築

手狭となっていた職員室及び特別活動室（旧親子図書館）が、校舎南側へ増築された。職員室は、グラウンドに向かって張り出したため、グラウンドや児童の登下校の状況を把握しやすくなった。特別活動室は、家具や照明に配慮して自由でくつろいだ空間を実現している。また、2階ベランダを増築部分まで張り出させ、有効に活用している。

4. 成果と課題

教室の開放性が向上し、校舎内の回遊性・流動性が確保され、多様な学習形態への対応がなされている。増築した職員室、特別活動室は、機能性・居住性が高まり、教育活動の向上に寄与している。階段室を螺旋階段とし、南側に新たなフレームを付加したことにより、校舎の内観、外観イメージを一新した。

一方、児童にとって螺旋階段の昇降には危険が伴うため、日頃からの注意の呼びかけが必要不可欠である。



各階平面図（改修後）